

韓日二人舞フェスティバル 2024 DDF(Duo Dance Festival) in Tokyo

日頃は私ども駐日韓国大使館 韓国文化院に対して、格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

駐日韓国文化院は、韓国と日本の二人舞作品を披露する「韓日二人舞フェスティバル」を開催します。2013年に始まった「韓日二人舞フェスティバル」東京公演は今回が6回目で、韓国文化院での舞台は2017年以来7年ぶりの開催となります。

今回の公演では韓国の伝統演劇作品を脚色した太鼓舞や日本伝統芸能の連獅子、まつり舞台、そしてコンテンポラリー二人舞作品など、両国舞踊家たちが繰り広げる友情の舞台をお届けします。

つきましては、本イベントの周知にご協力いただけますようお願いいたします。

資料のご依頼、取材のお申し込みは、韓国文化院（03-3357-5970）までご連絡下さいますようお願い申し上げます。

【イベント概要&情報】



- 行事名：韓日二人舞フェスティバルー DDF in Tokyo ー
- 日時：2024年3月13日（水）19:00開演（18：30開場）
- 会場：韓国文化院 ハンマダンホール（2F）
（〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-10）
- アクセス：東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」徒歩5分
- 出演：韓国と日本の舞踊チーム5組
EMICH（日本舞踊）、Odd Fish（現代舞踊）、勝見嘉之&勝見智忠（連獅子）、チェ・ジンウク&イム・ジンホ（現代舞踊）、キム・ジウン&チョ・ジョングン（太鼓舞・演奏）
- 主催：駐日韓国大使館 韓国文化院
DDF(Duo Dance Festival)推進委員会
- 主管：クスルチュモニ

「お問い合わせ」

駐日韓国大使館 韓国文化院 朴志勲（パク・ジフン） / 趙恩京（ジョ・ウンギョン）
TEL 03-3357-5970 postmaster@koreanculture.jp

【プログラム&出演】 ※プログラムは諸事情により変更になる場合があります。



〔1〕 まつり(MATSURI)

日本の「まつり」という言葉は、「祭(festival)」や「祀(worship)」など他にもいくつかの漢字で表現する。どの漢字でも共通するのは人間の捧げる想いについてあらわしていること。この作品も今を生きるわたしたちの世界の平穏へ祈りをこめて作られた。

<EMICH>

伝統芸能である日本舞踊で研鑽を積みながら日本舞踊の技法のみに縛られず形を超え、創作的な表現に挑戦するユニット。日本の伝統衣装である着物を着て自由に踊り、表現する舞踊を目指している。

清永千智 日本舞踊・花柳流師範。幼少より日本舞踊を修行。

大学から創作舞踊の研究を始め、創作舞踊ユニット EMICH を結成。国内外の舞台、コンクールを中心に活動。Seoul International Dance competition Ethnic Creative 2nd prize/東京新聞全国舞踊コンクール 5 位受賞など。

石井桜 日本舞踊・藤間流名取。幼少より日本舞踊を学び、大学より創作舞踊の研究を始める。国内コンクールや海外舞踊公演に出演の他、演劇作品など舞台公演で幅広く活動。

〔2〕 Melt Moon

意味や理由などは無い。だが、私たちは心をもらい、頭をもらい、器をもらった。私は湖畔に映り揺れるものの姿をじっと見つめた。

<Odd fish>

2017 年に小林萌と渡邊華蓮がデュエットグループ「Odd fish」を結成。横浜ダンスコレクション 2021 コンペティション II 若手振付家部門『アーキタンツ・アーティスト・サポート賞』受賞。

SAI DANCE FESTIVAL 2021、DDF（韓国）、Seoul International Choreography Festival（韓国）に招聘される。12th DDF Award にて最優秀賞を受賞。2023 Buddhism Dance Festival（韓国）に招聘され、グランプリを受賞。



〔3〕 連獅子

日本舞踊の中でも人気の高い演目の一つ。わが子を谷底に落とし、這い上がってきた強い子だけを育てるという伝説を題材とする舞踊で、親子の情愛と獅子の勇ましさが見どころ。

勝見嘉之 幼少の頃より日本舞踊を学び、5 歳で初舞台を披露。日本大学芸術学部を卒業後は師範を取得し、東京銀座に教室を開設。数々の舞台に立ち、新春舞踊大会にて奨励賞受賞。2019 年 3 月には国立大劇場にて、勝見流二代目家元を継承する。

勝見智忠 12 歳より子供歌舞伎に所属。13 歳で勝見嘉之氏に師事。18 歳で名取試験に合格。同年、師の襲名披露の際に国立大劇場にて「流星」を務める。その後、22 歳の時にはかねてより望んでいた師嘉之との「連獅子」を務める。



〔4〕 熟成

作品「熟成」は専門ジャンルが異なる二人の振付師の出会いから始まった。踊り方と技術は異なるが作品に対する二人の心は同じである。様々な動作に技術を足して創り上げられた踊りは、練習を通じて熟成し、絶えず変化しながら前に進む。

チェ・ジンウク&イム・ジンホ 韓国国立舞踊団の「サンジョ」、京畿道舞踊団の「オムルリ、フン」を通じて出会った韓国伝統舞踊のチェ・ジンウクと現代舞踊のイム・ジンホが、互いの作品世界観を深く探求し、現代韓国舞踊という新たなジャンルを表現している。

〔5〕 キム・ジウンの太鼓舞

*ブンバ打令の「恨（ハン）」と珍島太鼓リズムの「興（フン）」を土地の生命力で表す「太鼓舞」で、観客との共感と疎通が特徴の作品（*歌い踊りながら市場などを巡って物乞いをした人）

キム・ジウン（踊り） 現）キム・ジウン舞踊研究院代表、現）キム・ジウン イファ舞踊学院院长、元）社団法人リウル舞踊研究院理事、ソフア芸術中高等学校講師歴任

チョ・ジョングン（演奏） 劇団ミチュ、ソウル芸術団団員歴任、ソウル市ミュージカル団演技監督歴任、現）劇団トリウム代表、現）キム・ジウン舞踊研究院常任演出及び理事

